

【熊本県賞】

当たり前 熊本県 熊本県立八代中学校 二年 中村 心美

みなさんは、一日に何分ほど入浴しますか。また、週に何日ほど湯船に浸かっていますか。

私の友達に聞いてみると、週七日で四十五分ほどと、答えました。そして、私は週七日で早いときは二十分、ゆっくりしたいときは一時間ほど入浴しています。お湯がぬるくなったり、足りないとき、足りていきません。私の生活ではそれが日常で当たり前のことでした。

しかし、テレビを見てみると、ユニットバスという浴槽とトイレが一体化している物件があることに気がきました。

そこで私は、「世界にはどんな浴槽があるのだろうか。」と気になりました。調べてみると、欧米やオーストラリアなどではあまり入浴をしないということが分かりました。私は驚きました。なぜなら、私の中では毎日入浴することが当たり前だったからです。そして、私はさらに詳しく調べてみました。すると、欧米での入浴する目的は、単に、体臭や体の汚れを落とすためだということが分かりました。日本人はそれに加えて、リラクセスしたり、体をあたためたりするのも目的のうちである人が多いでしょう。この考え方の違いにも驚きました。

では、オーストラリアではどうなのでしょう。私は、理由を知ったとき、とても納得しました。その理由とは、水資源がとても貴重だということです。確かに、オーストラリアは降水量が少なく、土地の約八十%が乾燥帯であると、地理で習った覚えがあります。温帯で高温多湿な日本より、水資源が貴重なのは、もっともでした。

外で、うっとうしいほどに降っている雨も、当たり前のように近くを流れている川も、オーストラリアの約八十%にはないのです。オーストラリアにホームステイをしたことがある人たちの中には「お風呂は五分以内に済ませてほしい。」と言われた人もいたようです。

そのような記事や資料を見ると、私はとても恵まれた国に生まれたのだと実感しました。元々、オーストラリアに住んでいる人たちは「これが当たり前」だと思っているのかもしれないが、今の私にとっては耐え難いことでしょう。さらに、水資源が特に豊富とされる熊本県に生まれたので、水の使用を我慢することがありませんでした。そうして生きてきました。

こうやってできた、私の中の「当たり前」は、なかなか変えることができませぬ。しかし、現在は、熊本県も地下水が減りつつあります。私の「当たり前」が当たり前でなくなろうとしているのです。

私は熊本の水を守りたいです。そのためには、節水を心がけなくてはなりません。節水をするということは、当たり前を変えていくということです。どちらにしても「当たり前」を変えなければいけないのですが、このまま当たり前を貫き、熊本の水がなくなってしまうのは、嫌です。枯渇してしまう前に自分でできる、ささいな節水を心がけていきたいです。そして、このことをより多くの人に伝え一人一人が意識して節水することが大切です。また、水のことをもっと知り、自分が水のために何ができるのかをよく考え、確実に行動していくことが、水の枯渇を防ぐことにつながります。これから未来の人たちに熊本の水を飲んでもらうためにも、今の私たちが、世界に目を向け、水の大切さを理解しながら、少しずつ「当たり前」を変えていくべきなのです。